Form No. 3351-773

TORO®

8 & 11枚刃DPAリールモア

Greensmaster 3000 シリーズ

Model No. 04610—Serial No. 240000001 and Up
Model No. 04611—Serial No. 240000001 and Up

オペレーターズマニュアル

もくじ

ページ

もくじ 2
はじめに 2
仕様 3
　主な仕様 3
　オプション機器 4
組み立て 4
　付属部品表 4
調整 6
　リールと下刃の調整を行う 6
　後ローラを調整する 7
　刈り高の調整 8
　カット・オフ・バーを調整する 9
運転 9
　カッティングユニットの特性 9
　カッティングユニットの毎日の調整 9
保守 10
　ベッド・バーの整備 10
　バックラップ 10
Toro 一般業務用機器の品質保証 12

はじめに

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解してください。オペレータや周囲の人の人身事故や製品の損傷を防ぐ上で大切な情報が記載されています。製品の設計製造、特に安全性には常に最大の注意を払っておりますが、この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマー・サービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。モデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置は図1の通りです。

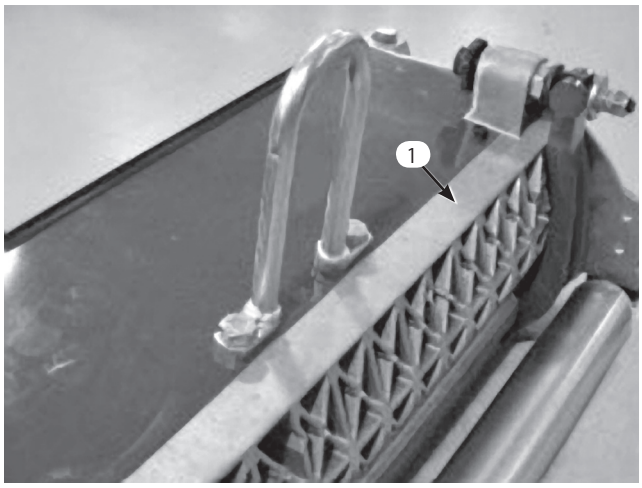

図1

1. 銘板取り付け位置

いまのうちに番号をメモしておきましょう。

Model No.	_____
Serial No.	_____

この説明書では、死亡事故を含む人身事故防止のために様々な方法でお客様の注意をうながしております。危険の度合いに応じて、***危険***、***警告***、***注意***、の３種類の用語を使い分けて説明を行っています。しかしながら、危険の度合いに関係なく、常に細心の注意をもって製品をお取り扱い下さいますようお願い申し上げます。

危険：死亡事故を含む*重大*な人身事故を防止するための最重要安全注意事項です。

警告：死亡事故を含む*人身事故*を防止するための重要安全注意事項です。

注意はけがなどを防止するための安全注意事項です。

この他に2つの言葉で注意を促しています。上記の注意事項のほか、**重要** は製品の構造などについての注意点を、また、**注：** はその他の注意点を表しています。

©2004 The Toro Company

8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

禁無断転載
Printed in the USA

仕様

主な仕様

トラクタ	グリーンズマスター 3000、3000-D、3050、3100、3150、3250-Dの各機種に搭載可能。
刈高	ユニット左右にある垂直ねじによって前ローラを上下させて刈高を調整し、ロック・ネジで固定する。
刈高調整範囲	作業台の上で設定する通常の刈高の範囲は 1.6 mm～12.7 mm。高刈りキットを取り付けた場合の刈高調整範囲は7 mm～25 mm。実効刈高はターフのコンディション、ベッドナイフの種類、ローラの種類、装着しているアタッチメントなどによって変化する。
リール溶接部	リールの大きさは直径13 cm, 長さ 53.3 cm。高張力低合金鋼製の刃に硬化処理と耐衝撃処理を行っている。
リール・ベアリング	2トラック式自動整列ボール・ベアリング（内径30 +/- 0.1 mm）をリール・シャフトの各端にすべり嵌めしてロック・ナットで固定している。ベアリング内外にシールを配して保護を高めている。リールの位置はウェーブ・ワッシャにより保持し、調整ナットは使用しない。
リール制御	リール・シャフトは直径 35 mmの溶接パイプ。この両端に駆動用インサートを嵌着している。さらに右端には8枚歯スプライン付きのフローティング・カップラを取り付け、スナップリングで固定している。 このカップラは 3250-D の右側前ユニット用に使用する場合には、反対側に移動することができる。
フレーム	アルミ・ダイキャスト製のクロス・メンバーにアルミ・ダイキャスト製のサイド・プレートを2本のボルトで固定している。
後ローラ	鋼鉄製（直径 5.1 cm）、シールド・ベアリング付き貫通シャフト構造。取り付け位置が2ヶ所あり、この選択によってユニットの姿勢とベッドナイフのリール中心線からの後退距離を変えることができる。
ベッドナイフ	ベッドナイフは高炭素鋼製片刃、フライス仕上げの鋳鉄製ベッドバーに13本のネジで装着する。標準装備品はトーナメント用ベッドナイフである。
ベッドナイフの調整	左右のネジにより、リールに対して相対移動させる；ネジを1ノッチ回転させることにより、ベッドナイフが、0.018 mm 移動する。
グラス・シールド	固定式シールドに可変式カットオフ・バーを組み合わせ、ぬれた刈りカス排出効率を高めている。
カウンタウェイト	鋳鉄製のウェイトをリール駆動モータと反対側に取り付ける。
リールの最高速度	2200 rpm
ウェイト	8枚刃： 32 kg 11枚刃： 34 kg

オプション機器

ハイカット・ベッドナイフ Part No. 94-6392

ローカット・ベッドナイフ Part No. 93-4264

マイクロカット・ベッドナイフ Part No. 93-4262

フェアウェイ・ベッドナイフ Part No. 63-8600

フルローラ（3本1組） Model No. 04620

細間隔溝付ローラ（3本1組） Model No 04626

広間隔溝付きローラ（3本1組） Model No. 04627

溝付き後ローラ（3本1組） Model No. 04425

グリーンズマスター3050, 3100, 3150用グルーマ（3本1組） Model No. 04630

グリーンズマスター3250用グルーマ（3本1組） Model No 04631

グリーンズマスター3050, 3100, 3150用回転駆動式ローラ・ブラシ（3本1組） Model No. 04640

グリーンズマスター3250用回転駆動式ローラ・ブラシ（3本1組） Model No. 04641

細溝ローラ用スクレーパ・キット（1本） Part No. 106-4661

広溝ローラ用スクレーパ・キット（1本） Part No. 106-4662

フルローラ用スクレーパ・キット（1本） Part No. 106-4663

後ローラ用スクレーパ・キット（1本） Model No. 04646

高刈りキット（カッティングユニット1台につき1台必要） Part No. 106-4699

5枚刃ヘビーデューティー・リール（1本） Part No. 106-2626

グルーマ・ブラシ・アセンブリ（1本） P/No. 107-8125

注：仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

組み立て

注： 前後左右は運転位置からみた方向です。

付属部品表

注：組み立てに必要な部品がすべてそろっているか、以下の表で確認してください。1つでも欠けていると組み立てを完成させることができません。

名称	数量	用途
ボール・スタッド	2	ローラに取り付けます
オペレーターズマニュアル	1	ご使用前にお読みください。
パーツカタログ	1	
認証証明書	1	
登録カード	2	*日本のお客様は返送ご不要です

1. カッティングユニットの前ローラはオプションなので出荷時に取り付けられていない。ローラに付属の説明書に従い、カッティングユニットの付属部品を使って、ローラをカッティングユニットに取り付ける。

2. ボルト、ナット類にゆるみがないか点検する。

3. シリアル番号が240000001より前のトラクションユニットに取り付ける場合は、トラクションユニットにあった吊り上げリンクを取り付ける。

   グリーンズマスター 3000, 3000-D, 3050, 3100, 3150トラクションユニットへの取り付けには、U字環 (P/N 105-5740) およびキャップスクリュ (2個; P/N 33115-025) が必要です。

   - カッティングユニットの上面にU字環をキャップスクリュ (2本) で取り付け、キャップスクリュをトルク締め(34–40 □•m=3.5～4.0 kg.m)します (図2) 。

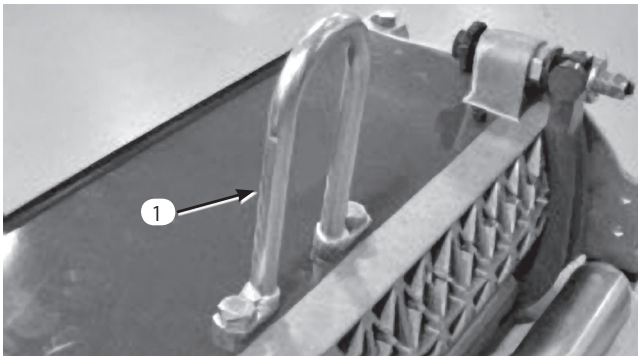

図2

1. U字環

   グリーンズマスター 3250-Dトラクションユニットへの取り付けには、チェーン•リンク (P/N 106-2601) 、取付ブラケット (P/N 105-5738) およびキャップスクリュ (2個; P/N 33115-025) が必要です。

   - カッティングユニットの上面にチェーン•リンクを取り付けブラケットとキャップスクリュ (2本) で取り付け、 キャップスクリュをにトルク締め(34–40□•m=3.5～4.0 kg.m)します。大きいほうのリンクがトラクションユニット側になります (図3) 。

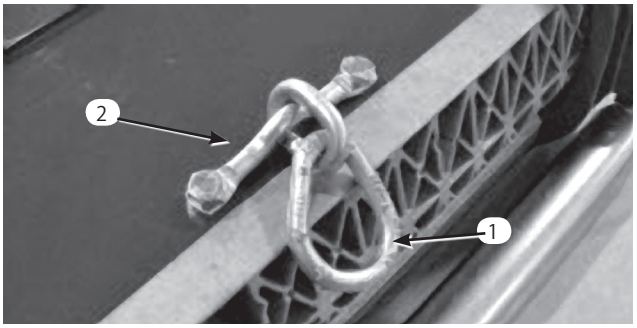

図3

1. チェーン・リンク
2. 取り付けブラケット

注:チェーン•リンクの代わりに、リフト•フック (オプション; P/N 106-6938) を使うことができます (図2) 。弊社代理店にてご購入ください。

重要 ベッドナイフやリールを見るためにカッティングユニットを立てる場合には、ベッドバー調整ネジが床面に接触しないように、カッティングユニットの後ろ側に支えを入れてください (図4) 。

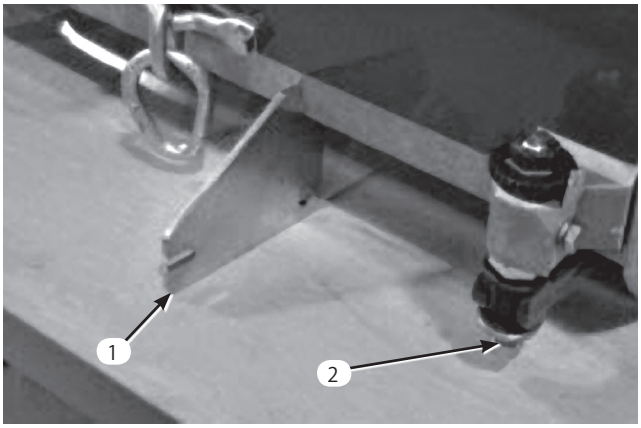

図4

1. ここを支える (支えは図示せず)
2. ベッド・バー調整ネジ (2)

4. どのカッティングユニットも、右側に駆動カップラ、左側にカウンタ•ウェイトを取り付けて出荷している。カッティングユニットをグリーンズマスター 3250-Dの右前の位置に取り付けるには、以下の手順で行う:

A カウンタ•ウェイトをカッティングユニットの左側に固定しているキャップスクリュ(2本)を取る。カウンタ•ウェイトを取り外す (図5) 。

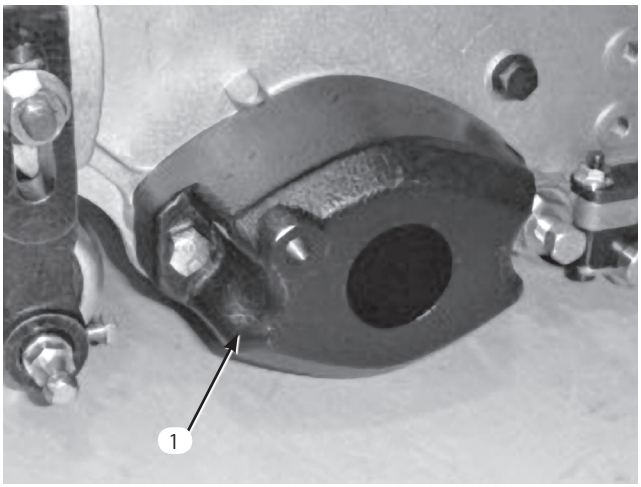

図5

1. カウンタ•ウェイト

B. カッティングユニット右側のベアリング・ハウジングについているプラスチック製のプラグを外す（図6）。

C. カッティングユニットの左側でモータ取り付け部を固定している六角ネジ（2本）を取る。モータ取り付け部を取り外す（図6）。

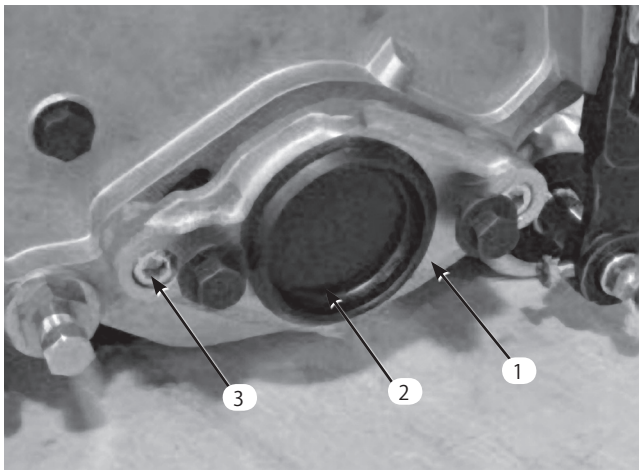

図6

1. モータ取り付け部
2. プラスチック製プラグ
3. 六角ネジ(2本)

D. 駆動カップラをリール・チューブに固定しているスナップ・リングを取る（図7）。駆動カップラを取り外す。

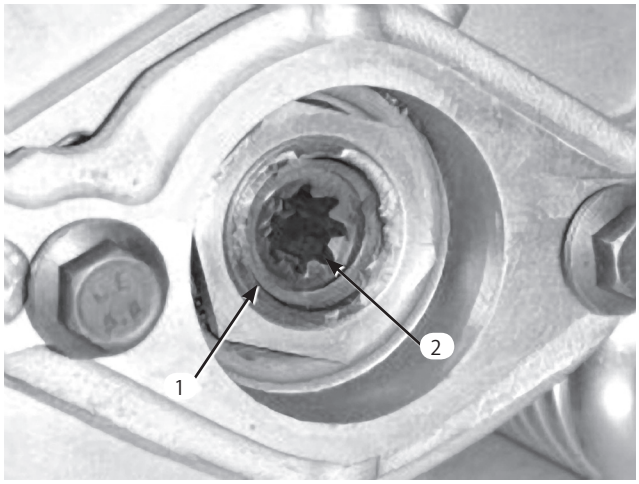

図7

1. スナップ・リング
2. 駆動カップラ

E. 駆動カップラの内面にグリスを塗る。駆動カップラを、カッティングユニットのリール・チューブの左端に取り付け、スナップ・リングで固定する（図5）。

F. 先ほど取り外した六角ネジ2本を使って、カッティングユニットの左側にモータ取り付ける（図6）。キャップスクリュを（16–20□•m=1.7～2.0 kg.m）にトルク締めする。

G. 先ほど取り外したネジを使って、カッティングユニットの右側にカウンタ・ウェイトを取り付ける。

調整

カッティングユニットの梱包を解いたら、以下の手順で、調整が正しく行われているかどうかを点検してください。

リールと下刃の調整を行う

リールと下刃の調整は、ユニット上面にあるベッド・バー調整ネジで行います。

1. ユニットを水平で平らな作業台の上に置く。ベッド・バー調整ネジを左に回して、リールと下刃の接触を完全になくす（図8）。

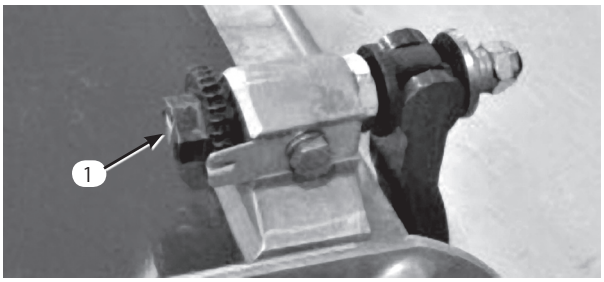

図8

1. ベッド・バー調整ネジ

2. ベッドナイフとリールが見えるように、カッティングユニットを立てる。

   ユニット左右についているベッドバー調整ネジのナットが床に当たっていないことを確認する（図4）。

3. リールの左右いずれかの端を選び、リールと下刃の間に、長く切った新聞紙片を差し入れる（図9）。リールをゆっくり前回転させながら下刃調整ネジを締め（新聞紙を入れた側の調整ネジを、1目盛りづつゆっくりと）、新聞紙を前から（ベッドナイフの上面に平行に）入れると軽く挟まれる程度に調整する。新聞紙を引き抜くのに軽い力が必要な程度でよい。

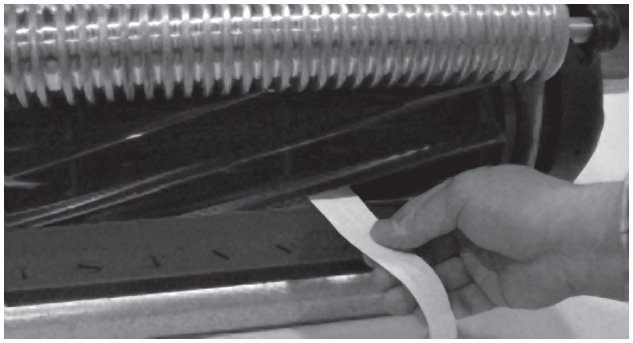

図9

注：調整ネジを1目盛り締めるごとに、下刃は0.0178 mm リールに近づきます。**調整ネジを締めすぎないように注意してください。**

4. この作業をリールの反対側の端でも行い、新聞紙で確認して必要に応じて調整する。

5. 両側とも調整ができたら最終確認を行う：紙片をリールの前から差し込んだ時にははさむだけ、下から差し込むと切れるのが適切な調整である（図9）。リールと下刃のごくわずかの接触で紙が切れなければいけない。接触を強くしないと切れない場合には、鋭利な刃先を取り戻して精密なカットができるようにバックラップか研磨を行うことが必要（Toro研磨マニュアルを参照）。

後ローラを調整する

1. 後ローラ・ブラケット（図 10および11）を希望の刈高範囲に合わせて正しくセットする（高位置または低位置）。

   - 刈高 1.6 mm～6 mm の場合： スペーサをサイドプレート取り付けフランジの上（出荷時の設定）にセットする(図10)。

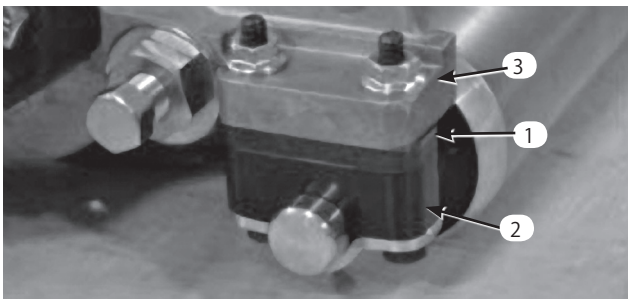

図10

1. スペーサ
2. ローラ・ブラケット
3. サイド･プレート取り付けフランジ

   - 刈高 3 mm～25.4 mm の場合： スペーサをサイドプレート取り付けフランジの下にセットする(図11)。

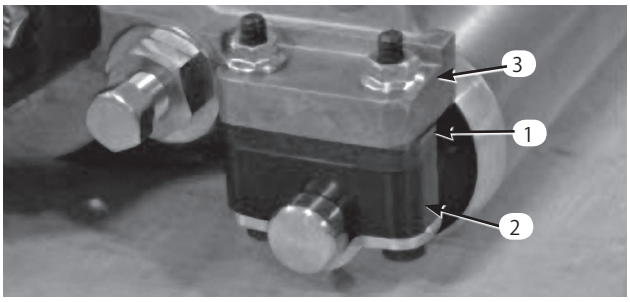

図11

1. スペーサ
2. ローラ・ブラケット
3. サイド･プレート取り付けフランジ

2. 後ローラの調整は以下の手順で行う：
   - カッティングユニットの後部を持ち上げてベッドナイフの下に角材などの枕を置く。
   - 各ローラ・ブラケットをそれぞれのサイドプレート取り付けフランジおよびスペーサに固定しているナット2個を外す。
   - サイドプレート取り付けフランジとスペーサから、ローラとボルトを外す。
   - スペーサを、ローラ・ブラケットの上にしてボルトに通す。
   - ローラ・ブラケットと2枚のスペーサとを、サイドプレート取り付けフランジの下側に、ボルトで取り付ける。

3. ベッドナイフとリールの調整を確認する。カッティングユニットを立てて、前ローラと後ローラ、およびベッドナイフが見えるようにする。

注：リールと後ローラとの平行関係は、カッティングユニット全体の組み立て精度により保証されていますから、調整は不要です。極わずかの狂いの調整は以下の方法により可能です：カッティングユニットを定盤の上に載せ、サイドプレート固定キャップスクリュをゆるめる（図12）。全体を調整してキャップスクリュを再度締め付ける。

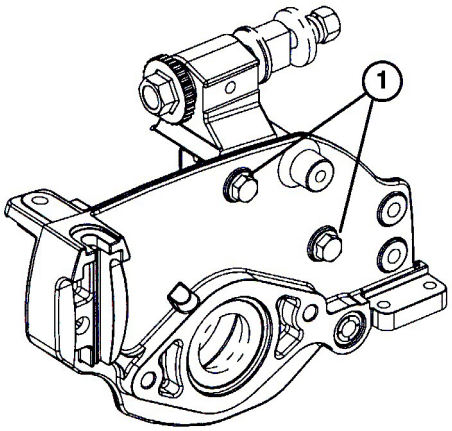

図12

1. サイド・プレート取り付けキャップスクリュ

重要ベッドナイフやリールを見るためにカッティングユニットを立てる場合には、ベッドバー調整ネジが床面に接触しないように、カッティングユニットの後ろ側に支えを入れてください（図4）。

刈り高の調整

注： 刈高を 13 mm 以上に設定するには高刈りキットが必要です。

1. 刈り高アームをカッティングユニットのサイドプレートに固定しているロックナットをゆるめる（図13）。

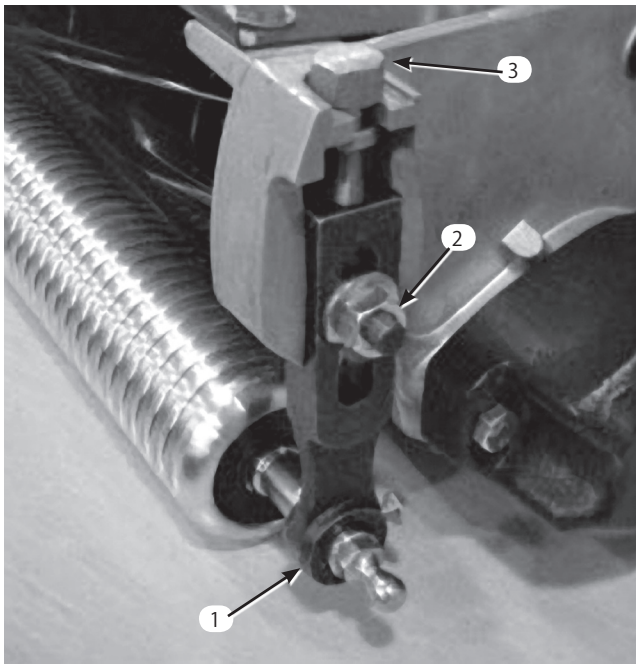

図13

1. 刈高アーム
2. ロックナット
3. 調整ネジ

2. ゲージバー（図14）のナットをゆるめ、調整ネジを希望の刈り高に合わせる。ネジ頭の下からバーの表面までの距離が刈り高となる。

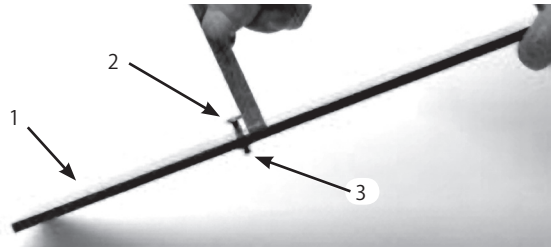

図14

1. ゲージバー
2. 刈高調整ネジ
3. ナット

3. ゲージバーのネジ頭を下刃の先端に引っかけ、バーの後端を後ローラに当てがう（図15）。

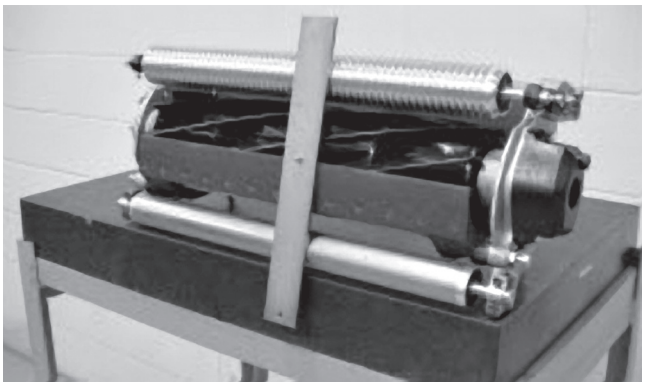

図15

4. バーの前端がローラに当たるように、調整ネジで調整する。ローラ全体が下刃と平行になるように、ローラの両側を均等に調節する。

   前後のローラにゲージが当たり、ネジ頭がリールにぴったりと掛かっているのが正しい調整状態です。下刃の左右端でこの状態となるように調整してください。

5. ナットを締めて調整を固定する。締めすぎないように注意すること。ワッシャの遊びがなくなればよい。

注： 以下の表により、希望する刈高に最も適したベッドナイフを決定してください。

推奨
ベッドナイフ選択チャート

ベッドナイフ	パーツ番号	刈高
マイクロカット（オプション）	93–4262	1.6〜4.8 mm
トーナメント（標準）	93–4263	3.2〜13 mm
ローカット（オプション）	93–4264	4.8〜25 mm
ハイカット（オプション）	94–6392	8.0〜25 mm
フェアウェイ（オプション）	63–8600	9.5〜25 mm

カット・オフ・バーを調整する

刈りカスがリールからスムーズに出るように調整します。

1. バー（図16）をカッティングユニットに固定しているネジをゆるめる。

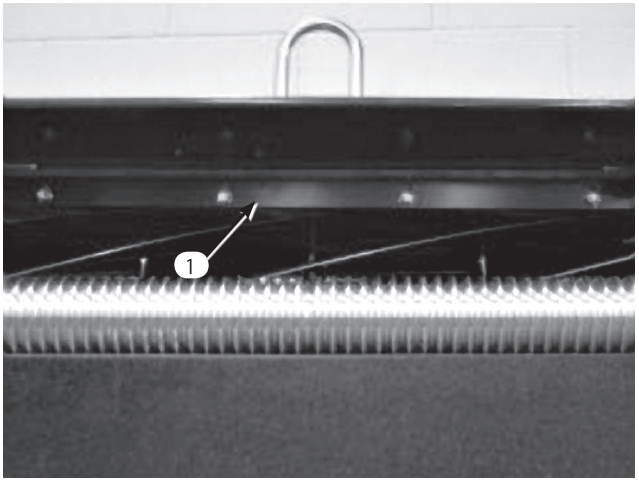

図16

1. カット・オフ・バー

2. 隙間ゲージを使って、リール上面とバーの間を1.5 mm に調整し、ネジを締めてバーを固定する。リールの全幅にわたって隙間の幅が一定となるように注意する。

注：この調整はターフの状態変化に合わせて行ってください。芝面が非常に乾燥している時にはバーをリールに近づけます。逆に、芝が濡れている時にはバーとリールの隙間を大きくします。いずれの場合も、リールとバーとが平行になることが重要です。また、リールの研磨を行った場合には必ずこの調整が必要です。

運転操作

注： 前後左右は運転位置からみた方向です。

カッティングユニットの特性

このカッティングユニットではデュアル・ノブ方式によってベッドナイフとリールの調整を行うようになっており、最適の調整を簡単に手早く行うことができます。また、このデュアル・ノブ方式では非常に正確な調整ができますので、ベッドナイフとリールとが相互に研磨しあうようになり、鋭利な刃先が長持ちして、高品質な刈りを長時間持続させることができ、バックラップの頻度を大幅に減らすことができます。

カッティングユニットの毎日の調整

毎日の芝刈りの前に、また必要に応じて、各カッティングユニットのリールとベッドナイフの接触状態を点検してください。**この点検は、前日の調子に係わりなく毎回行うことが非常に大切です。**

1. 平らな固い床の上にカッティングユニットを降ろし、エンジンを停止、キーを抜き取る。
2. 手でリールをゆっくりと後ろ向きに回転させ、リールとベッドナイフの接触状態を耳で確認する。相互の接触が全くなければ、上調節ネジを均等に締めながら、ごく軽い接触が得られるようにする。

   注：調整ノブのネジを1ノッチ回転させることにより、 ベッドナイフが、0.018 mm 移動します。
3. 相互の接触が強すぎる場合は、調整ノブを1ノッチずつゆるめながら、接触がまったくなくなるようにする。そしてその位置から調整ノブを1ノッチずつ締めて、ごく軽い接触が得られるようにする。

重要どんな場合でもごく軽い接触がベストです。接触が全くないと、リールとベッドナイフの相互研磨作用が全くなくなるので、切れ味の落ちるのが早くなります。逆に、接触が強すぎると、相互の摩耗が早く進んで、刈り上がりに悪影響が出やすくなります。

注：ベッドナイフとリール刃は継続的に接触しているので、使用期間が長くなるとベッドナイフの全長にわたり、切先部に小さなバリが出来てきます。時々ヤスリでこのバリを取り除いてやると切れ味が向上します。

ベッドナイフは、長期間使用しているうちにリールに削られ、リールの端部と接触する縁の部分が角張ってきます。この角張った部分はヤスリで削り落としてください。

保守

注： 前後左右は運転位置からみた方向です。

ベッド・バーの整備

ベッド・バーの取り外し

1. ベッド・バー調整ネジ（図17）を左に回してベッドナイフとリールの接触をなくす。

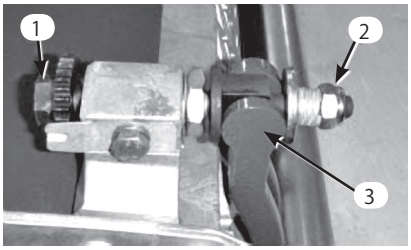

図17

1. ベッド・バー調整ネジ
2. スプリング・テンション・ナット
3. ベッド・バー

2. スプリング・テンション・ナットをゆるめて、ワッシャがベッド・バーにまったく押し付けられていない状態にする（図17）。
3. ベッド・バー・ボルト（図18）を固定しているナット（機体両側）をゆるめる。

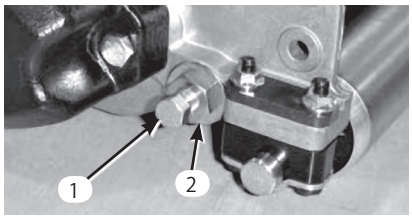

図18

1. ベッド・バー・ボルト
2. ナット

4. 各ベッド・バー・ボルトを抜いてベッド・バーを下に引き抜いて外す（図18）。ベッド・バーの両端にナイロン・ワッシャとスチール・ワッシャが2枚ずつあるので注意する（図19）。

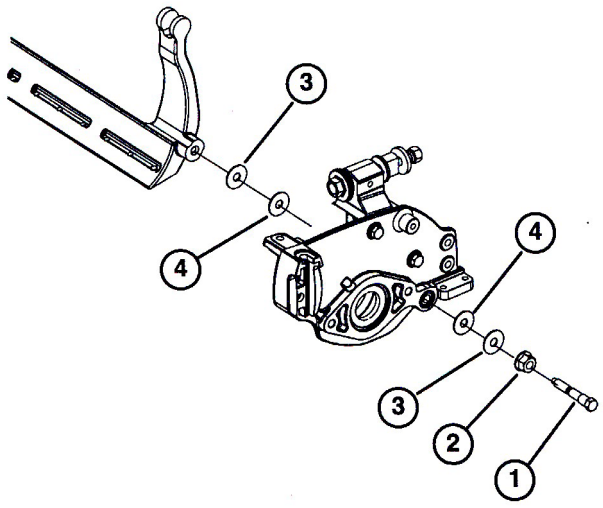

図19

1. ベッド・バー・ボルト
2. ナット
3. スチール製ワッシャ
4. ナイロン製ワッシャ

ベッド・バーの取り付け

1. ベッド・バー・アジャスタとワッシャとの間にベッド・バーの固定用「耳」を入れる。

2. ベッド・バー・ボルト（とボルトについているナット）とワッシャ8枚で、ベッド・バーを各サイド・プレートに固定する。ナイロン・ワッシャはサイド・プレートの両側のボスに嵌め込む。その外側からスチール製ワッシャを取り付ける（図19）。ボルトを 2.8～3.6 kg.m にトルク締めする；端部の遊びがなくなるように、ただしサイドプレートを変形させるほどには締めすぎていない程度に、フランジ・ナットを締め付けること。内側のワッシャには遊びがあってよい。

3. スプリングがつぶれるまでテンション・ナットを締め、そこから半回転戻す。

4. ベッド・バーの調整を行う； 7ページの「リールと下刃の調整」を参照。

バックラップ

⚠ 危険 ⚠

回転しているリールに触れると大けがをする。

リールその他の可動部に手指、足、衣類等を近づけないよう注意すること。

- **バックラップ中のリールには、絶対に手や足を近づけないこと。**
- **柄の短いブラシは絶対にバックラップに使用しないこと。必ず柄の長いブラシ（P/N 29-9110）を使用する。このブラシは完成品でも部品でも入手可能である。**

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、駐車ブレーキを掛けてキーを抜き取る。

2. カッティングユニットからリール・モータをはずし、昇降アームからユニットをはずして床に置く。

3. カッティングユニットのカップリング（通常右側）に 10 mm の角棒を差し込み、バックラップ装置を接続して、バックラップを行う。

注： さらに詳しい説明が、「Toro リール/ロータリー・モアのための研磨マニュアル（Form No. 80-300PT）」に掲載されています。

注：バックラップが終わったら、ベッドナイフの前端に軽くヤスリ掛けを行ってください。これによりベッドナイフ前端に形成されたバリを取り除きます。このとき刃先を削らないように注意してください。

Toro 一般業務用機器の品質保証

2年間品質保証

対象製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品（「製品」と呼びます）の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。

*アワー・メータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店（ディストリビュータ又はディーラー） に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。

連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196
952-888-8801 or 800-982-2740
E-mail: commercial.service@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オーナーズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません。

- Toroの純正交換部品以外の部品や弊社が認めていないアクサセリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 必要な整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレード、リール、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言います。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない冷却液や潤滑剤、添加剤の使用などが含まれます。
- 通常の使用にともなう「汚れや傷」。 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類（「部品」）は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。

この保証によって取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は部品の交換でなく再生による修理を行います。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。 商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害にたいする免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。

この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について：米国においては環境保護局（EPA）やカリフォルニア州法（CARB）で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、エンジンマニュアルまたはエンジンメーカーからの書類に記載されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店（ディストリビュータまたはディーラ）へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。輸入元の対応にご満足頂けない場合は本社へ直接お問い合わせください。

Part No. 374-0031 Rev. a